

ALPS処理水の海洋放出は、安全性を確保して、計画通り進めています。

- ▶2025年度は、ALPS処理水を7回放出する計画で、12月までに6回実施しました。現在、中長期的な設備の健全性の確保に向けた点検を行っています。(7回目の放出は2026年3月を予定)
今年度は、7回合計で約54,600m³、トリチウム総量で約15兆ベクレル^注を放出する計画です。注:事故前の放出管理値と同じ年間22兆ベクレルの範囲内
- ▶ALPS処理水は、放射性物質濃度(トリチウムを除く)が、安全に関する規制基準を満たしていることを確認(下表①)し、さらに、トリチウム濃度が国の規制基準の1/40を下回るまで大量の海水で希釈してから海洋に放出しています(下表②)。
- ▶これまで、発電所周辺の海水のトリチウム濃度は、運用上の指標(放出停止判断レベル:700ベクレル/リットル)を大きく下回っています(下表③)。
- ▶IAEAは、2023年7月公表の「包括報告書」において、「ALPS処理水の海洋放出に対する日本の取組みは、関連する国際安全基準に合致している」、「東京電力により計画されたALPS処理水の海洋放出は、人及び環境に対し、無視できるほどの放射線影響となる」と結論付けました。直近では、昨年12月に行われたALPS処理水の海洋放出に関する安全性レビュー後に、IAEAは、「包括報告書の結論を再確認した」との内容を公表しています。

【2025年度放出実績】 1回目:4/10～4/28、2回目:7/14～8/3、3回目:8/7～8/25、4回目:9/11～9/29、5回目:10/30～11/17、6回目:12/4～12/22

処理水の放出量 (1～6回合計)	トリチウム総量 (1～6回合計)	①トリチウム以外の 放射性物質の濃度	②希釈後のトリチウム濃度*1 (1,500ベクレル/リットル未満*2)	③海水のトリチウムのモニタリング結果	
				発電所から3km以内	発電所正面から10km四方
47,177m ³	約14.0兆ベクレル	告示濃度比総和*3 0.083～0.19 < 1	最大500 ベクレル/リットル	最大61 ベクレル/リットル	検出せず

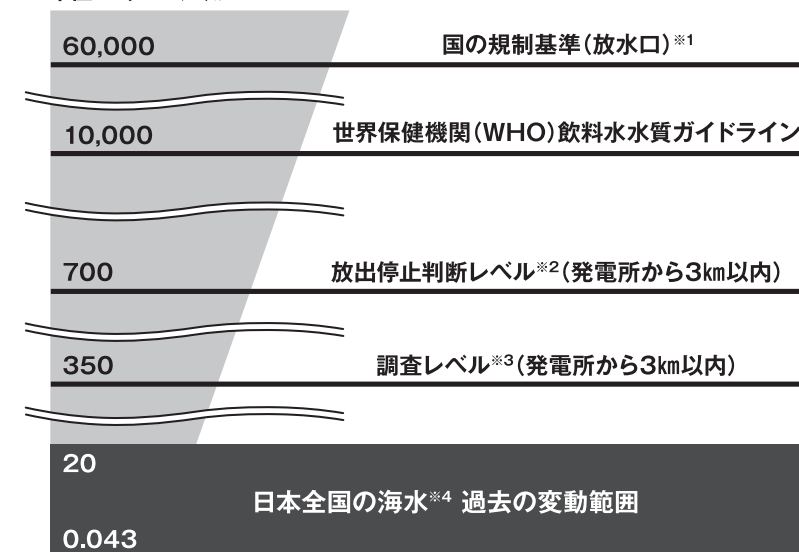
*1. 海水配管にて採取した試料のトリチウム濃度(「不確かさ(分析データの精度)」を考慮した値)

*2. 1,500ベクレル/リットル:政府方針で示された海洋放出のトリチウム濃度の上限(国の規制基準の1/40)

*3. 各核種の濃度の法令上の限度に対する比を求め、それを合計したもの

【参考】トリチウム濃度の比較

単位:ベクレル/リットル



*1. 70年間、原子力施設の放水口から出る水を、毎日、その濃度で約2ℓ飲み続けた場合に一年間で1ミリシーベルトの被ばくとなる濃度から定められた国の規制基準

*2. 設備の運用としてALPS処理水の海洋放出を停止する指標

*3. 「放出停止判断レベル」に達する前の段階において必要な対応を取る指標

*4. 出典「日本の環境放射能と放射線」(期間:2019/4～2022/3)



ALPS処理水に関する情報はこちらをご覧ください
▶[処理水ポータルサイト]
<https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/watertreatment/>



ALPS処理水の放出実績についてはこちらをご覧ください
▶[放出実績]
https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/watertreatment/performance_of_discharges/



福島第一原子力発電所の廃炉・汚染水・処理水対策
▶[皆さまのご意見をお聞かせください]
<https://www.tepco.co.jp/decommission/voice.html>



東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー
〒979-1301 福島県双葉郡大熊町大字夫沢字北原22